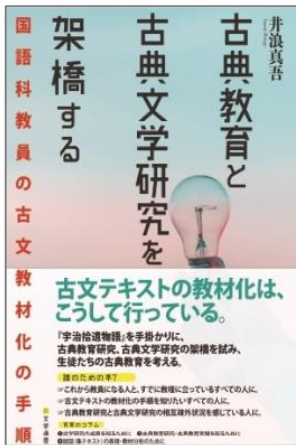




図書出版

文学通信

2020年 新規配信タイトル



古典教育と古典文学研究を架橋する —国語科教員の古文教材化の手順—

著编者名	井浪 真吾	発行年	2020
同時1アクセス(本体)	¥7,425	同時3アクセス(本体)	¥22,275
冊子版ISBN	9784909658265	商品コード	1031843703

「古典を勉強する意味ってあるんですか？」近年、こういった問いに対して応答する人が増えてきました。本書は、古典文学研究が明らかにしてきたものを生かし、古典教育研究や古典教育実践が明らかにしてきた古典教育の意義や目標と照合し、現在の古典教育をめぐる状況を踏まえながら、『宇治拾遺物語』を手掛かりに、教材化を試みた実践の書です。



古典は本当に必要なのか、 否定論者と議論して本気で考えてみた。

著编者名	勝又 基	発行年	2019
同時1アクセス(本体)	¥4,950	同時3アクセス(本体)	¥14,850
冊子版ISBN	9784909658166	商品コード	1031325272

古典否定派・肯定派の本物の研究者があつまって論戦に挑んだ、2019年1月の伝説のシンポジウム「古典は本当に必要なのか」の完全再現+仕掛け人による総括。古典不要論を考える際の基本図書となった本書を、これから各所で真剣な議論が一つでも多くされていくことを祈りながら刊行します。



怪異をつくる —日本近世怪異文化史—

著编者名	木場 貴俊	発行年	2020
同時1アクセス(本体)	¥7,700	同時3アクセス(本体)	¥23,100
冊子版ISBN	9784909658227	商品コード	1031843700

人がいなければ、怪異は怪異にはならない。では誰が何を「あやしい」と認定して怪異になったのか。つまり、怪異はどうつくられてきたのか。そこにある様々なありさまを、当時の「知」の体系に照らし描ききる。章立ては、近世の怪異をつくった第一人者、林羅山からはじまり、政治、本草学、語彙、民衆の怪異認識、化物絵、ウブメ、河童、大坂、古賀侗庵の全10章プラス補論3章。全方向から怪異のあり方を突き詰める、これからの怪異学入門が遂に誕生。

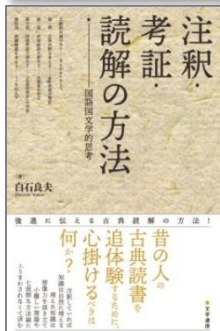
2020年 新規配信タイトル



「国文学」の批判的考察 —江戸のテキストから古典を考え直す—

著編者名	空井 伸一	発行年	2020
同時1アクセス(本体)	¥31,625	同時3アクセス(本体)	¥94,875
冊子版ISBN	9784909658272	商品コード	1031843704

今日私たちが「古典」とするものの多くは、書籍の公刊が可能とした知識の共有に因るところが大きいですが、本書は、日本近世期における文学受容の在り方として特徴的な、そういった公刊された作品を対象とし、特定の時代背景や限定的な人間関係だけに還元されることのない読みを通じて、「古典」が「開かれたテキスト」であることの意義について考える。江戸のテキストから古典を考え直し、「国文学」を批判的に考察する書。



注釈・考証・読解の方法 —国語国文学的思考—

著編者名	白石 良夫	発行年	2019
同時1アクセス(本体)	¥8,800	同時3アクセス(本体)	¥26,400
冊子版ISBN	9784909658173	商品コード	1031325273

注釈していれば、知識は自然に増える。増えた知識は想像力を掻き立て、小難しい理論や七面倒な方法論にふりまわされなくて済む——。昔の人の古典読書を追体験するために、心掛けるべきは何か。後進に伝える古典読解の方法！



日本の歴史を解きほぐす —地域資料からの探求—

著編者名	地方史研究協議会	発行年	2020
同時1アクセス(本体)	¥4,125	同時3アクセス(本体)	¥12,375
冊子版ISBN	9784909658289	商品コード	1031843705

日本の現代社会の、その先を見るために、歴史はこう読む。地域資料から日本の歴史を読み解くと、さらに歴史がおもしろくなり、現代社会もその先に見えてきます。本書は、各地域に残された資料や歴史的な事柄を通して、住まいの地域や日本の将来を考える手がかりにするべく、それぞれの資料に向き合ってきた新進の研究者が、歴史の読み解き方をふんだんに伝える書。知名度はかならずしも高くないものの、地域を考えるうえで重要な資・史料に焦点をあてて、学術的なその面白さを広めていきます。



近世前期江戸出版文化史

著編者名	速水 香織	発行年	2020
同時1アクセス(本体)	¥24,200	同時3アクセス(本体)	¥72,600
冊子版ISBN	9784909658241	商品コード	1031843701

三都(京・大阪・江戸)の出版界が互いに結びつきはじめる1670年代から、三都に本屋仲間が結成されて後、より組織的な活動が確立してゆく1750年代までの、江戸を中心とした出版文化の具体的な姿は、個々の書肆に関する資料が極めて乏しく、捉えきれていなかった。そこで本書は、近世前期の江戸において大規模な出版活動を展開した書肆を複数選定し、その出版物を調査して年表化を行い、個々の出版活動の具体像を構築し直し、そこから地域としての特性や活動傾向を推測、書肆活動の文化史的な意義を明確にする。



江戸中期上方歌舞伎囃子方と音楽

著編者名	前島 美保	発行年	2020
同時1アクセス(本体)	¥33,000	同時3アクセス(本体)	¥99,000
冊子版ISBN	9784909658258	商品コード	1031843702

上方と江戸の体系的な歌舞伎音楽史を把握し、日本音楽史、近世文化史を考え直すために。江戸歌舞伎のみ注目され歌舞伎音楽研究が進められてきた結果、上方を含めた近世歌舞伎音楽や演奏家の通史的な研究、あるいは上方に特化した歌舞伎音楽史や舞踊史は現在まで行われてこなかった。そこで本書は、江戸時代の上方歌舞伎を支えた囃子方(唄、三味線、鳴物の演奏者)の芝居小屋出勤とその上演演目について各種の演劇書(興行関係史料)から把握し、囃子方の関わった音楽や舞踊の実態を史料に基づき明らかにする。

● 表示価格は税抜きです。

2020年10月